

# 地域医療連携だより

病院の理念  
患者本位の医療

## 基本方針

- ・患者さまの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- ・地域中核病院として、高度な医療と救急医療の充実に努めます。
- ・急性期病院として関係機関と連携し、地域医療の充実を目指します。
- ・地域がん診療拠点病院として、機能の充実強化に努めます。
- ・臨床研修指定病院として、地域医療を担う優れた医師の育成に努めます。



## 新年を迎えて

明けましておめでとうございます。

昨年は当院にとって2回目の病院機能評価受審となりましたが、おかげさまで認定を更新し新たな出発をしました。これも皆様方の日頃のご支援の賜物と感謝いたします。

圧倒的支持で政権交代を成し遂げた民主党政権に国民は大きな期待をこめて年明けした昨年でしたが、期待は失望に変わり将来に対する不安・閉塞感が重く漂い、政治不信はさらに増大する年となりました。

一方、医療界にとっての朗報は、長年の医療費抑制政策が見直され、4月に診療報酬がプラス改定されたことです。不十分ながらも崩壊の危機に瀕した地域医療の再生の糧となりました。

地域の医療資源を有効活用するには、各医療機関の無駄な競争をやめ各病院の特性を活かした機能分化と連携が必須です。すでに多くの医療機関には医療連携室が設置されて病診・病病連携が推進されています。また、病院の診療データが公開されることにより利用者自身が病院を選択し、機能分化に拍車をかける時代となってきており、道路網などアクセスの改善等によって地域住民の受療行動は広域化しています。さらに、放置すれば地方自治体の財政悪化と医師不足により特定診療科・医療機関の集約・統合も加速されることが考えられます。ここで忘れてならないのはますます少子高齢化がすすむ当地域においては、とくに弱い立場の住民の視点に立った医療提供体制の構築と充実です。私たち医療に係わるものが、地域完結型医療の新たな構築を目指して取り組んできたはずが、気がつけば多くの町で中心の商店街は寂れシャッター通りに変貌し、ますます増加する高齢者にとっては生活の困難な地域となってしまっている轍を、地域医療においては決して踏むことのないように、誰のための医療か、常に医療の原点を見すえて地域の事情にマッチした医療提供体制の構築に取り組む必要があります。医師不足などの医療を取り巻く環境は相変わらず厳しい状況ですが、地域医療を担う皆様方と危機感を共有し連携・連帯して、知恵を出し合い暖かみのある地域医療の充実にむけて取り組ましますのでよろしくご指導ご協力をお願いいたします。

皆様方のご多幸とご活躍を祈念し、新年の挨拶といたします。



病院長 鈴木 忠



## 年頭のご挨拶



経営管理部長 坂本 和彦

新年あけましておめでとうございます。

十年一昔と言いますが、世の中の移り変わりはとても急速で、その変わる様は著しいものがあります。医療を取り巻く環境や状況も例外ではありません。

私が育った藤岡市の北部地域は、合併前は、ONO村と呼ばれていました。この地域の50年前の人口は4,639人、これに対しこの地域の医療を支えていた診療所医師は1人。ひと昔、ふた昔・・・と時が流れて今の状況は、人口11,247人に対し診療所医師が4人。地域の人々の健康増進と維持を担う地域医療の体制は人口の伸びを越えて充実してきています。

一方、最近藤岡市に合併した市の南部地域の旧ONISI町では、人口の減少とともに診療所医師が減り、現在では、この地域の診療所医師は1人もいない状況です。

このように地域間における医療需給の過疎と過剰が顕在化する中、当院と当医療圏に存する地域医療機関との病病・病診連携は、地域の先生方のご理解とご協力のお陰で比較的うまくいっているように思います。

今後もこの関係をより良好なものにするとともに、より深い連携のきずなを育てていきたいと考えています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

## 地域医療連携課より

日頃、地域の医療機関及び福祉施設の皆様方には、当院の地域医療連携業務にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

- 地域医療連携統括  
甲賀 英明 (こうが ひであき)
- 課長  
土屋 和子 (つちや かずこ)
- 看護師長兼グループリーダー  
岩井 隆子 (いわい たかこ)
- 事務担当  
山崎 雄大 (やまざき かづひろ)
- 相談指導員  
島田 将司 (しまだ しょうじ)
- 相談指導員  
柳井 紀道 (やなぎい のりみち)
- 相談指導員  
荒井 頼道 (あらい よりみち)
- 相談指導員 (外来センター担当)  
柚木 礼子 (ゆき れいこ)

# 研修医症例検討会

平成22年12月7日開催



公立藤岡総合病院附属外来センター会議室で研修医7名による症例発表および検討会が開催されました。

藤岡多野医師会長・副会長はじめ地域の医師、当院の医師や職員が参加し一例ごとに熱心な発表・検討が行われました。

## 症例発表 内科系 発表者および演題

- ・高橋 駿介 「インフルエンザ感染症を契機に発症した顕微鏡的多発血管炎の一例」
- ・竹村 仁男 「頸部、縦隔、腹腔リンパ節結核を合併した糖尿病性腎症の一例」
- ・中田 聡 「感染に伴う赤色尿で発見された溶血性貧血の男児例」
- ・宮地 那実 「冠動脈C Tが有効であった労作性狭心症の一例」

## 症例発表 外科系 発表者および演題

- ・高見 尚平 「切迫早産にて管理中に常位胎盤早期剥離を来し緊急帝王切開となった一例」
- ・塚越 律子 「胃MALTリンパ腫に多発早期大腸癌を合併した一例」
- ・富田 庸介 「狐発性Creutzfeldt-Jakob diseaseの一例  
～画像診断、現状での知見を中心に～」



行事予定

- |           |     |                      |
|-----------|-----|----------------------|
| <b>2月</b> | 9日  | 第15回 藤岡・多野心血管病懇談会    |
|           | 10日 | 第115回 公立藤岡総合病院 公開CPC |
|           | 16日 | 第3回 藤岡地域がん診療ネットワーク会議 |
| <b>3月</b> | 1日  | 地域医療連携懇話会            |
|           | 9日  | みかぼカンファレンス           |
|           | 14日 | 藤岡地区呼吸器セミナー          |



【お問い合わせ】  
地域医療連携課